日本社会学会大会
2017年11月4・5日

大都市部における格差拡大の進行過程とその社会的帰結に関する調査

(2)信頼感・社会関係資本に関する地域類型を考慮したマルチレベル分析：社会地区分析と標本調査の接合

浅川達人
明治学院大学社会学部

1．目的

- 社会地区分析により析出された社会地区から調査地点を選び，標本調査を行う。
- 帰納的に得られた地域類型を集団レベルの効果とし，それを分離しても個人レベルの効果が残るか否かを，マルチレベル分析を用いて分析した。

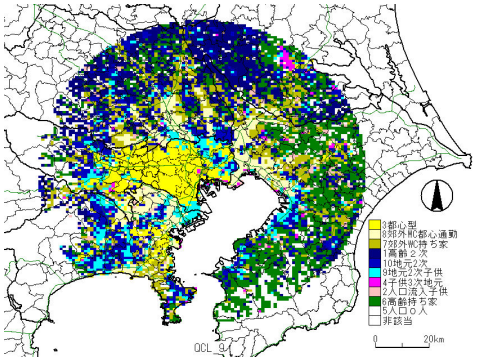
2. 方法

- 社会地区分析
  - データ
    - 1990年，2000年，2010年国勢調査
    - 東京駅を中心とした半径60km圏内
    - 人口構成（2），就業構造（4），学歴（1），人口流入（1），住宅（1），職業階層（2），通勤通学（3）
  - クラスター分析
    - K-means法
    - 9つの社会地区を析出
- マルチレベル分析
  - データ
    - 人口が少なく著しく高齢者に偏る上に，面的広がりが見られなかった「高齢持ち家人口流入」地区を除く8個の社会地区より選ばれた調査地点の回答者から得られたデータ（n=1,594）を分析の対象とした。
  - マルチレベル分析
    - 従属変数：主観的健康
    - 個人レベル：属性・階級，社会関係資本（集団参加，一般的信頼感）
    - 地域レベル：社会関係資本
  - 60歳以上はアンダークラスから除外した

3．結果（1）

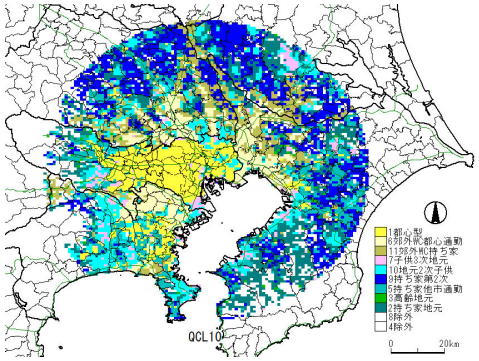
社会地区分析

60km圏内の経年変化



1990年

23区東部にブルーカラーベルト
周辺部に製造業の集積



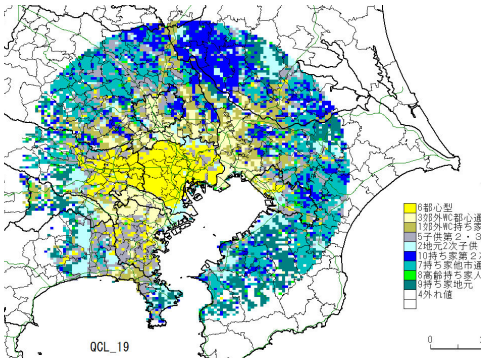
2000年

ブルーカラーベルトの衰退
茨城県，埼玉県，千葉県に製造業

クロス集計

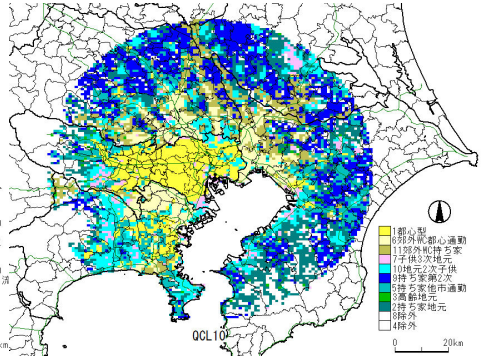
- 都心部の変化
  - ◯ブルーカラーベルトの衰退
  - – 地元2次子供→地元2次子供(45%)，子供3次地元(18%)
  - – 地元2次→地元2次(45%)，持ち家他市通勤(20%)
  - ☆都市自営業層の解体
- 周辺部の変化
  - ◯製造業の集積
  - – 高齢2次→持ち家2次(52%)，持ち家地元(24%)
  - – 高齢持ち家→持ち家2次(44%)，持ち家地元(34%)
  - ☆農業から製造業へ

60km圏内の経年変化



2010年

ブルーカラーベルトの消失
製造業は茨城県，埼玉県・千葉県は物流関連



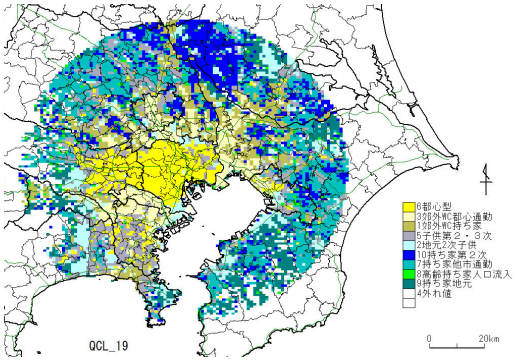
2000年

ブルーカラーベルトの衰退
茨城県，埼玉県，千葉県に製造業

クロス集計

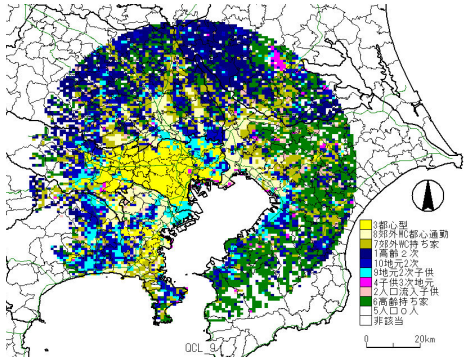
- 都心部の変化
  - ◯ブルーカラーベルトの消失
  - – 地元2次子供→地元2次子供(40%)，都心型(20%)，子供2,3次(19%)
  - ☆都市自営業層の解体
- 周辺部の変化
  - ◯製造業から物流関連へ
  - – 持ち家第2次→持ち家他市通勤(54%)，持ち家第2次(36%)
  - – 地元2次子供→地元2次子供(43%)，子供2,3次(33%)
  - – 持ち家地元→持ち家地元(47%)，持ち家2次(28%)
  - ☆製造業から物流へ
  - ☆農業から製造業へ

60km圏内の経年変化



2010年

ブルーカラーベルトの消失
製造業は茨城県，埼玉県・千葉県は物流関連



1990年

23区東部にブルーカラーベルト
周辺部に製造業の集積

60km圏内の経年変化

都心部

- ブルーカラーベルトの基部が消失した
- 城南地区もブルーカラーの集積地ではなくなった

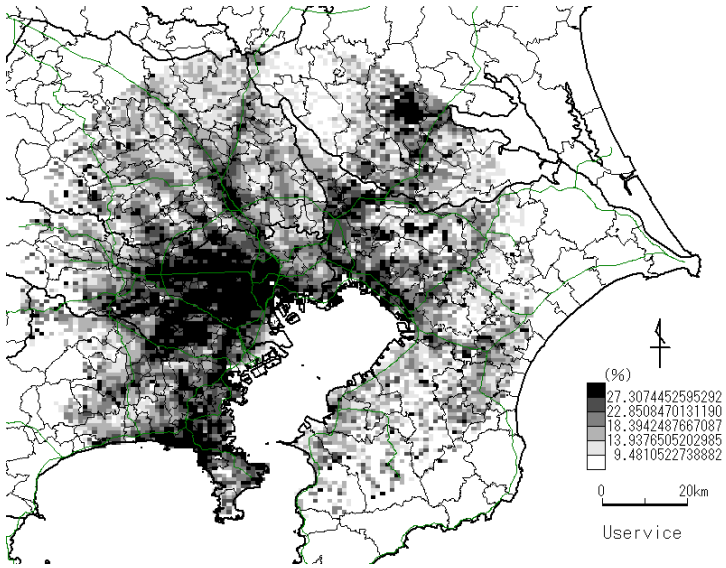
＊階層構造については，新たな観点から分析する必要がある。

周辺部

- 集積していた製造業は，茨城県南部へと凝離した
- 千葉県，埼玉県，神奈川県は物流関連の産業へと変化した

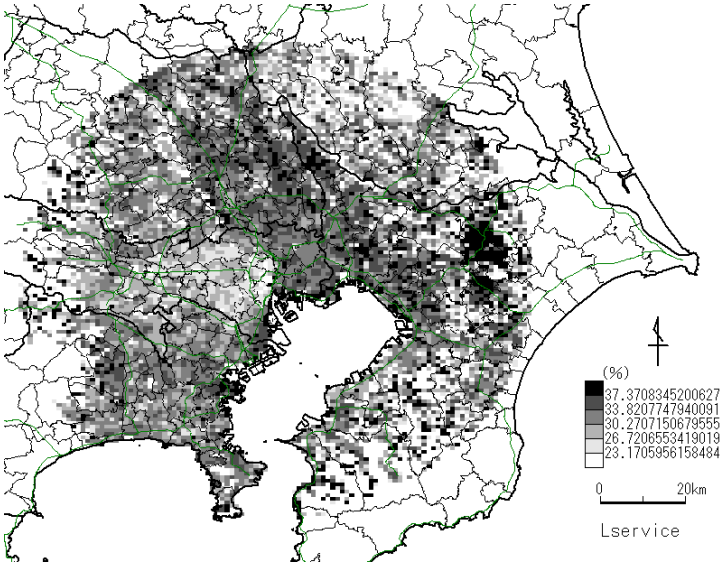
階層構造分析の追加

サービス業従業者の再編



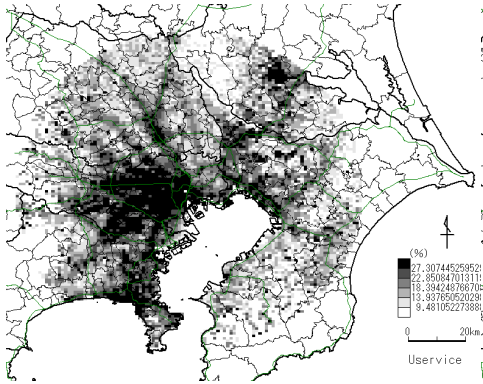
サービス産業再分類
（新中間階級）

電気ガス水道
情報通信
金融保険
不動産
学術研究
教育学習支援
公務

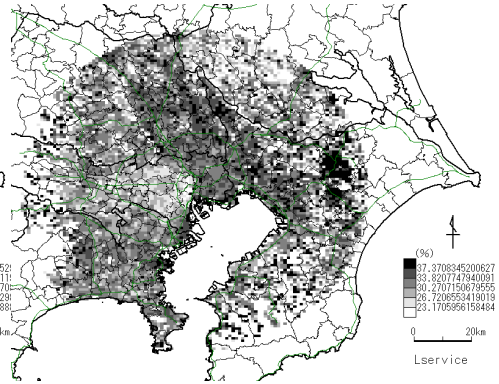


サービス産業再分類
（労働者階級）

運輸
卸売小売り
宿泊飲食
生活関連



サービス産業再分類
（新中間階級）



サービス産業再分類
（労働者階級）

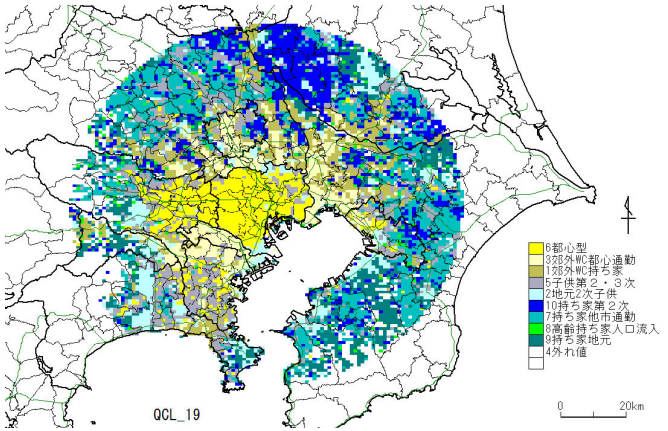
サービス業従業者の再編

1. 金融業・情報サービス業など高度な技能・判断力を必要とする職業（新中間階級）
2. 金融業・情報サービス業と，これらの就業者の生活を支える単純労働者（労働者階級）

3．結果（2）

マルチレベル分析

分析モデル



2010年

従属変数：主観的健康

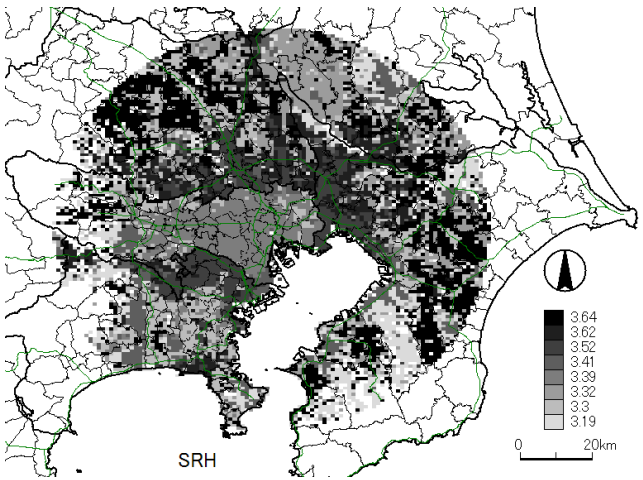
地域：8つの社会地区

個人レベル：属性・階級，社会関係資本（集団参加，一般的信頼感）

地域レベル：社会関係資本

1郊外ホワイトカラー居住地域
2周辺部第2次産業子育て地域
3郊外ホワイトカラー都心通勤者地域
5第2・3次産業子育て地域
6都心市街地域
7持ち家通勤者地域
9持ち家地元勤務者地域
10第2次産業地域

社会地区ごとの，主観的健康の平均値



クラスター番号		主観的健康
14	持ち家通勤者地域	3.64
9	郊外ホワイトカラー居住地	3.62
11	郊外WC都心通勤者地域	3.52
16	第2次産業地域	3.41
13	都心市街地域	3.39
10	周辺部第2次産業子育て地域	3.32
12	第2・3次産業子育て地域	3.30
15	持ち家地元通勤者地域	3.19

F=3.378, p<0.01

主観的健康に関連する要因分析の結果

		モデル1	モデル2	モデル3	モデル4	モデル5	モデル6
固定効果（個人レベル）							
属性・階級	性別D（女性）		−0.021	−0.061	−0.061	−0.061	−0.061
	年齢		−0.009 ***	−0.014 ***	−0.014 ***	−0.014 ***	−0.014 ***
	資本家階級D		0.516 ***	0.361 **	0.361 **	0.362 *	0.361 **
	新中間階級D		0.417 **	0.332 *	0.332 *	0.331 *	0.332 *
	正規労働者階級D		0.335 **	0.303 *	0.303 *	0.303 *	0.303 *
	パートD		0.534 ***	0.444 ***	0.444 ***	0.444 ***	0.444 ***
	旧中間階級D		0.268	0.234	0.234	0.233	0.234
	専業主婦D		0.396 **	0.260	0.260	0.260	0.260
	無職D		−0.208	−0.212	−0.212	−0.211	−0.212
Social Capital	町内会D			0.006	0.006	0.006	0.006
	同窓会D			0.194 ***	0.194 ***	0.194 ***	0.194 ***
	趣味の集まりD			0.157 ***	0.157 ***		0.157 ***
	近所付き合い			0.085 **	0.085 **	0.085 **	0.085 **
	一般的信頼感			0.257 ***	0.257 ***	0.257 ***	0.257 ***
ランダム効果（地域レベル）							
	地域レベル切片	3.426 ***	3.425 ***	3.432 ***	3.435 ***	3.435 ***	3.435 ***
Social Capital	町内会DG				−1.228 ***	−1.223 ***	−1.069 ***
	同窓会DG				2.097 ***	2.099 ***	1.567 ***
	趣味の集まりDG				−0.629 *	−0.633 *	−0.390 **
	近所付き合いG				1.539 ***	1.535 ***	1.444 ***
	一般的信頼感G				0.314 ***	0.312 ***	0.482 ***
交互作用	趣味＊趣味G					−0.321	
コントロール	年齢G						−0.018 ***
適合度指標							
	AIC（小さい）	4445.571	3989.013	3810.856	3805.220	3809.229	3807.079

p<0.05*, p<0.01**, p<0.001***

主観的健康の規定要因

モデル1
NULLモデル

主観的健康に地域差が見られるか否かを確認した。その結果，地域レベルの切片が有意であり，主観的健康の地域間のばらつきは無視できないことがわかった。

モデル2
属性・階級モデル

年齢は高いほど不健康。旧中間階級，専業主婦，無職を除く全ての階級において，アンダークラスよりも健康である。

モデル3
SCモデル
（個人レベル）

同窓会・趣味の集まりに参加している人ほど，近所付き合いをしている人ほど，一般的信頼感のある人ほど，健康である。

モデル4
SCモデル
（地域レベル）

町内会参加が多い地域ほど不健康。趣味の集まりに参加する人が多い地域ほど不健康。　それ以外は個人レベルのSCと同じ傾向。

モデル5
レベル間交互作用

有意ではない。

モデル6
年齢をコントロール

地域レベル変数として年齢をコントロールした。町内会参加と趣味の集まりについて係数は小さくなったが有意であった。

＊主観的健康：1よくない，5よい，一般的信頼感：1そう思わない，4そう思う
＊階級（8分類）の基準カテゴリーは，アンダークラス
＊非標準化係数
＊地域レベルの変数については，クラスター平均を用いている
＊個人レベルの変数については，クラスター平均でセンタリングした
＊地域レベルの変数については，全体平均でセンタリングした

マルチレベル分析の考察(1)：個人レベル

- 属性・階級
  - 階級は健康を規定している
    - 資本家階級・新中間階級・正規労働者階級・旧中間階級はアンダークラスより健康であった。
  - 専業主婦効果
    - 個人レベルのSCを投入すると効果が消える
    - 専業主婦の効果は見せかけの効果であり，個人レベルのSCが真の効果であることが示唆される。
- 個人レベルの社会関係資本
  - 集団（同窓会・趣味の集まり）に参加している人は健康である
  - 近所づきあいをしている人，一般的信頼感がある人は健康である
  - 町内会は個人レベルの社会関係資本とはなっていない

マルチレベル分析の考察(2)：地域レベル

- 社会関係資本（個人レベルと同様）
  - 同窓会参加者比率の高い地域
  - 近所づきあい頻度の平均値が高い地域
  - 一般的信頼感の平均値が高い地域
- 社会関係資本（個人レベルとは異なる）
  - 町内会参加者比率が高い地域ほど不健康
    - 地域の年齢をコントロールしても
    - 旧来の地縁的結合が強い地域の健康状態が課題か
  - 趣味の集まり参加者比率が高い地域ほど不健康
    - さらなる分析が必要

知見のまとめ

- 社会地区分析
  - 都心部の変化・・・都市自営業層の解体，時間差ジェントリフィケーション
  - 周辺部の変化・・・茨城県への製造業の集積，埼玉県・千葉県への物流関連事業所の集積
  - 少子高齢化・職業構造の両極化・経済活動のグローバル化という社会変動に伴って社会空間構造が変化した
- マルチレベル分析
  - アンダークラスは他の階級より健康状態が悪い。
  - 個人レベルの社会関係資本を保有する人ほど健康状態が良い。
  - 社会関係資本が蓄積された地域に暮らす人ほど健康状態が良い。
  - 地域レベルの社会関係資本については，さらなる検討が必要。

参考文献

- 浅川達人，2006,「東京圏の構造変容―変化の方向とその論理―」『日本都市社会学会年報』vol.24 pp.57-71
- 浅川達人，2008,「社会地区分析再考―KS法クラスター分析による二大都市圏の構造比較―」『社会学評論』234号 pp.299-315
- 倉沢進・浅川達人編，2004,『新編東京圏の社会地図1975-90』東京大学出版会
- 園部雅久，2001,『現代大都市社会論：分極化する都市？』東信堂
- 玉野和志，2005,『東京のローカルコミュニティ』東京大学出版会
- 玉野和志・浅川達人（編），2009,『東京大都市圏の空間形成とコミュニティ』古今書院
- 豊田哲也，1999,「社会階層分極化論と都市の空間構造」成田孝三編『大都市圏研究（上）』大明堂
- 兵藤哲朗，2015,「東京都市圏の最新の物流施設のあり方」『BE建築設備』建築設備綜合協会
- 兵藤哲朗，2016,「首都圏三環状高速道路整備による物流への影響」『IATSS Review』vol41, No.1, 国際交通安全学会
- 松本康，2004,『東京で暮らす』東京都立大学出版会
- Florida, R., 2005, *The Flight of the Creative Class*, New York
- Sussen, S., 1991, *The Global City: New York, London, Tokyo*, Princeton Univ Pr

謝辞

- 本研究は，科学研究費補助金（基盤研究A）「大都市部における格差拡大の進行過程とその社会的帰結に関する計量的研究」（研究代表者：橋本健二，研究分担者：浅川達人・片瀬一男・佐藤香・武田尚子・木村好美・石田光規）による研究の一部です。

- 分析結果は暫定的なものであり，今後，変更される可能性があります。引用される場合は，知見の部分を中心とし，具体的な数値・図表等については，論文・著書等の公表までお控え願います。
- 連絡先：asakawa@soc.meijigakuin.ac.jp